校長室の小窓から・・・

－No.１－　令和７年４月８日（火）　金光八尾中学校高等学校　校長　松井 祥一

これからの 40 年が始まります

４月より、校長の職を拝命しました松井祥一です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私が教職に就いたのが昭和 60 年、創立 40 年を迎えた金光八尾開校の年です。近代日本の歴史は、40 年周期で盛衰を繰り返していると言われます。1865 年、幕末の薩長戦争から日露戦争、第二次大戦終戦、バブルの起点となったプラザ合意など、40 年周期で日本は大きく変化しました。そして、次の 40 年目が今年、2025 年です。少子高齢化による人口構造の変化がもたらす、医療や介護、雇用など幅広い分野の課題が山積、いわゆる 2025 年問題です。今、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字から「VUCA（ブーカ）時代」と言われています。

予測困難だから面白い。「さあ、やってみなはれ！」

確かに、政治経済、感染症、自然災害など予測困難であると言えましょう。しかし、考えてみれば、未来を予測するなど簡単にできるものではないのです。私が小学生のときに開催された 1970 年の大阪万博には、８回行きました。21 世紀はこんなに発展するのだと夢が膨らんだ記憶があります。例えば巨大台風を消滅させ被害を防げるようになるのだとワクワクしました。今でも難しい技術ですが、人類は挑戦し続けています。

私は幼稚園のときに「あのね、大きくなったらパイロットになる」と手紙に書きました。予想とは全く違う人生を歩んでいますが、皆さんと出会うことができました。

人生はなかなか思い通りにならないものです。だから面白いのだと思います。夢や目標を持ち、それに向かって努力することは本当に面白いのです。結果的に報われなかったり、気づけば予想もしなかった道に進んでいたり、ということもよくありますが、夢や目標を持てば、頑張る意味が見えてきます。その過程で、多くの経験や出会いが生まれます。そのプロセスこそが生きがいであり、豊かな人生につながるのです。

さあ、新しい年度がスタートいたしました。サントリーの創業者である鳥井信治郎の口癖「やってみなはれ！」　元気が出る言葉です。